

## 第36回 仙台市広瀬川清流保全審議会議事概要

◆ 日 時 : 平成22年1月25日(月) 午後13時30分～

◆ 場 所 : 市役所本庁舎 2階 第一委員会室

◆ 出席者 : 《審議会委員》(15名/16名)

飯尾 正彦 仙台弁護士会

石黒 大 (社) 仙台青年会議所副理事長

伊藤 直司 宮城県土木部長(代理: 鷺巣河川課長)

内田 美穂 東北工業大学環境情報工学科准教授

加藤 一男 宮城管内町内会長連絡会

金子 賢司 広瀬・名取川漁業協同組合理事

小浜 暁子 東北工業大学環境情報工学科准教授

近藤 初音 (財) 日本野鳥の会宮城県支部

嶋崎 省 仙台森林管理署長

菅原 賀寿美 作並温泉旅館組合

田上 澄雄 国土交通省東北地方整備局河川部長(代理: 宮崎河川環境課長)

◎西村 修 東北大学大学院工学研究科教授

西山 浩一 (社) 宮城県建築士会仙台支部

松澤 保佑 北部広瀬川愛護推進協議会顧問

○宮城 豊彦 東北学院大学教養学部教授

(◎: 会長 ○: 副会長)

### 《事務局》

高橋 秀道 建設局長

栗和田 幸夫 建設局理事兼次長

西堀 耕造 建設局次長

遠藤 進 建設局百年の杜推進部百年の杜推進課長

宮城 重通 建設局百年の杜推進部公園課長

川上 正博 建設局百年の杜推進部青葉山公園整備室長

石井 鉄雄 環境局環境部環境対策課長

森 研一郎 交通局東西線建設本部建設課長

小坂 幸一 建設局百年の杜推進部河川課長

柴田 政喜 建設局百年の杜推進部河川課広瀬川創生室長

◆ 欠席者 佐藤委員

◆ 司 会 広瀬川創生室長

1 開 会

2 議 事（報告事項）

- (1) 地下鉄東西線工事に伴う西公園自然崖部の復旧について
- (2) その他

3 閉 会

<p>(司会)</p>	<p><b>(開会)</b></p> <p>ただ今から「第36回仙台市広瀬川清流保全審議会」を開会する。 本日、佐藤委員から所用により欠席との連絡をいただいている。 出席委員が全委員の過半数に達しているので、本日の審議会は成立している。</p>
<p>西村会長</p>	<p><b>(議事)</b></p> <p>それでは、議事を進めるが、その前に、いくつか確認事項がある。 まずは、会議の公開・非公開についての確認である。本日の議事には非公開となる事案がないので、公開としてよろしいか。</p> <p>－委員了承－</p>
<p>西村会長</p>	<p>それでは公開とする。</p> <p>傍聴されている方は、会議の円滑な運営を図るため、会議中の注意事項を厳守いただくようご協力をお願いします。</p> <p>今回の議事録の署名については、アイウエオ順で前回、飯尾委員だったので、今回は石黒委員をお願いします。</p> <p>－石黒委員了承－</p>
<p>西村会長</p>	<p><b>(議事(1))</b></p> <p>それでは、議事に入る。「(1) 地下鉄東西線工事に伴う西公園自然崖部の復旧について」、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>東西線建設本部 建設課 西村会長</p>	<p><b>事務局説明</b>（資料4により東西線建設本部建設課より説明）</p> <p>ただいまの説明に対し、委員の皆様から意見・質問等があればお願いします。</p>

田上委員代理	<p>率直な意見として、前回の意見「④展望台の様々な方向から見え方が気になる」について、このように見えるとは前回わからなかった。右側は展望が利くのだが真正面はあまり見えない。もう少し見えると思った。</p> <p>ある程度公園の整備が終わり、周辺の維持管理をきっちりすればいいのかと思うが、今は秋の枯れているシーズンなので、左側に見えるのは管理されていないためこのように見えるのだと思う。</p> <p>各案とも展望テラスの両サイドが管理されている状態で見栄えもいい。ヒマラヤスギの下の部分も管理されることが原則、前提だと思う。</p>
河川課長	<p>樹木がかかって見えづらいことについてだが、P. 6にあるように展望テラス左側は保存樹林になっており、仙台市にとっても大切な木である。管理の状態についても言われていたが、現状は写真のようになっている。</p> <p>将来については、公園課の方で公園整備を進めているが、画面にあるように、芝生広場になり、樹木の管理についても多少手を加えていけば見え方は今より綺麗に見えてくると思う。</p>
西村会長	<p>眺望については委員の指摘の通りである。展望台から左側の方は保存樹林が見え、遠くの方までは見えないようである。</p>
田上委員代理	<p>保存樹林は1本も切れないものか。</p>
百年の杜推進課長	<p>保存樹林であり保全することが原則である。公園整備の中でもあったが、生育環境の改善、維持管理に伴う伐採・枝おろしは当然やるべきことである。</p>
田上委員代理	<p>新聞に盛岡城跡でヒマラヤスギを切るべきか切らざるべきかで、ある程度切ることになったとあった。こちらは今非常に密生している。今はいいのかもしれないが、20～30年先は管理をしていかないと大変かと思う。このヒマラヤスギの間には雑木もあるのか。指定はヒマラヤスギのみなのか。</p>
百年の杜推進課長	<p>ケヤキ等の大木もあるが、指定の対象はヒマラヤスギのみである。</p>
西村会長	<p>保存樹林や公園の整備がかかわってこれから具体的になってくるのだと思うが、そちらを前提に今議論を進めるわけには行かない。</p>

伊藤委員代理	展望台と下の広場への動線は考えているのか。
公園課長	天文台があった場所と下の保存樹林がある場所への新たな動線は考えていない。大橋に行く市道沿いに、上と下を結ぶ既存の階段があるが、それを利用する予定である。
西山委員	直接関係ないのかもしれないが、下段の公園について、展望台から見渡すと開けている北側の使われ方に興味が行くと思う。現段階で、大橋方から階段があって下りて行き、線路を挟んで北側に行く動線は考えているのか。
公園課長	既存の階段を下りると保存樹林のところに出てくる。今後は地下鉄が通る箇所は、天然芝の大きな広場を作る予定である。広場の中に園路を中央と河岸沿いに作る予定で、現在は線路の下を自由に通れるようにする考えである。
東西線建設本部 建設課長	線路下部分について補足説明する。崖下から川にかけて地下鉄は上って行き川をまたぐようになる。途中約2.5mの桁下空間が確保出来れば形状は柱になる。園路を作る、作らないにかかわらず向こう側が見える空間が出来る。
近藤委員	<p>いくつか質問したい。一つ目は、展望台から見える範囲で三分の二くらいは保存樹林が見え、見渡しがきく範囲は少ないのではないのか。つまり、展望台の出ているところはどちらに向いているのか。川に向いているのか、この資料を見るとほぼ保存樹林に向いているような感じがする。そうすると、見える範囲の三分の二は保存樹林になって見渡せるのは意外に少ないのではないか。</p> <p>二つ目は、先ほどの話でもあったのかもしれないが、芝生の面において線路の向こう側には行けるようになる。下を通るかどこかを通して北側に行けるようになるということだったかと思う。そうでないと向こう側に行きたいときどうなるかなと感じた。</p> <p>三つ目は、安全面である。青葉山のつり橋ではないが、極端に言えば身投げ等、どの案にしても展望台より線路天井が四角く出ていてワンクッションあるので安全かと思うが、手すりなど安全面をどのように考えているか。最初の印象ではちょっと怖いかなと思った。</p> <p>四つ目は、スライドを見ると対岸がかなり向こうに見えるが、国際センター裏に出来る桜の小径側からこちらを見た感じはどのようなものか。観光客が集まると思うので、そこからこちらを見た感じはど</p>

<p>東西線建設本部 建設課長</p>	<p>の程度近くに見えるか想像がつかないので、美しさや見え方が気になる。</p> <p>視界の範囲については、展望台はどれも円形で真正面に立つと右半分が開けていて、左半分は保存樹林の緑が目に入るというような視覚になると思われる。</p> <p>芝生広場については、橋の下は空間があり公園課からもあったように公園整備の中でいくつか園路がつくと思うので、広場は橋の下の園路を通って行けるようになるし、東西線としても通れるような構造を前提に設計している。</p> <p>安全については、転落防止は非常に大事なことであるが、転落防止のことを考えすぎると展望台でなくなるという難しい点もある。東西線としても線路が走っているのだから、上から物の投棄があると電車の運行の支障になる場合もある。その辺りに折り合いをつけ、このデッキの上に何らかの手すりのような形等の検討をしている。対岸については、こちらより線路に近いデッキになっているため透明な板を付けるような形を考えている。</p> <p>対岸からの景色については、距離が250mくらいあり、見え方としては人が動いているのが見えるかなという距離である。逆に桜の小径の方から見ると河畔の林が密集しているのだから、現状のままだと河畔の自然林が見えてくる。公園整備の状況によっては、上段の桜の広場等が少し見えるのかなと考えている。</p>
<p>石黒委員</p>	<p>まず、会長に確認したい。本日は3つの案から何かを選択するものなのか。それとも思いついたことを発言するものなのか。</p>
<p>西村会長</p>	<p>スライドP.3の検討スケジュールにあるように、本日、第36回広瀬川清流保全審議会を行っているが、本日の目的は展望台基本設計の完成に向けた方向付けということで、3案出されている。その中で最もふさわしいであろうというものを審議会で意見を集約する。それについてさらに詳細設計がこれから行われていくということになる。</p>
<p>石黒委員</p>	<p>展望台を作ること自体は決まっていますが、どのように作るかを考えていくということだが、やはり考えるうえで、展望台を作るからには利用してもらいたいと思う。利用にあたっては、観光客に向けて仙台を紹介したいということになるかと思うが、車を止めるところが今ないはずである。国際センター等に止めることはできるとしても、あの辺りは駐車スペースがない。展望台のための駐車スペースは考えている</p>

公園課長	<p>か。</p> <p>展望台の駐車スペースというのは考えていない。西公園の全体整備を行っているが、西公園の中にまとまった駐車場を作るという計画は現在のところない。また、公園の管理用車両1～2台を止める程度のスペースは用意するが、展望台のための駐車場は今のところ考えていない。</p>
石黒委員	<p>歩行者をはじめタクシーや公共交通機関を利用してきた方が、ここを利用すると思う。上の展望台から下の公園へのアクセスは階段を利用してという話があったが、その階段というのは道路の歩道を通りヒマラヤスギの間を抜けてのところなのか。</p>
公園課長	<p>その通りである。</p>
石黒委員	<p>もし、利用者だとしたらスロープ案はスロープのまま降りたいと思う。高さやバリアフリー等の問題があると思うが、市民の一人として子供が展望台から見てそのまま下に降りられるという二次的な目的があればいいかと思った。</p> <p>CGのヒマラヤスギについて、ヒマラヤスギの高さが実際とは違うような気がする。展望というからには、やはり眺望を楽しみたい。実際このヒマラヤスギの樹齢と高さはどれくらいなのか。</p>
東西線建設本部 建設課長 百年の杜推進課長	<p>高さは現況の高さをコピーしているので、ほぼこの高さである。</p> <p>樹齢は昭和50年指定当時が30～37年ぐらいだったので、現在は70年前後の樹齢になる。当時の高さは20mくらいで、現在は当然高くなっている。</p>
石黒委員	<p>最初の動画が非常にわかりやすかった。動画とCGの高さが違うのかと感じた。動画はデッキの高さなのか。</p>
東西線建設本部 建設課長	<p>CGのヒマラヤスギについて、シルエットのようなものは同じ高さから撮ってスチールで貼り付けたものである。イメージ的にはこのぐらいかと思う。この動画はこれもスチールで撮った同じ視点の高さから撮ったもので、見え方はほぼ同じと思う。高さは崖の上の段、展望台の高さになると思われる高さから、下段までの高さは12mの落差がある。ヒマラヤスギはさらにその上に十数mあるという高さである。</p>

<p>石黒委員</p>	<p>12mをスロープでとすると 12～20 倍の距離が必要で、真っ直ぐ延ばすとなるとかなり厳しいものである。</p> <p>最後に、大橋の歩道に何箇所かたまり場があり、眺望が楽しめる。そこではだめなのかなとも思う。そこは、下流方向などすごくきれいな眺望である。ここの展望台は川面が見られないという話だったので、ぜひ素敵な眺望になるよう作って欲しい。</p>
<p>西村会長</p>	<p>本日は、この3案から最も推薦できるものというような意見を頂戴したい。ご意見・ご質問をお願いします。</p>
<p>田上委員代理</p>	<p>この案はいくらくらいかかるのか。お金も少し絡んでくるかなと思うので、概算でもいいので経済比較があれば教えてほしい。</p>
<p>東西線建設本部 建設課長</p>	<p>経済比較というか概算工事費についてはもう少ししたらと思っていた。費用としては3,000万～4,000万くらいと考えている。それぞれの案の金額についてほぼ同じ、大差はないと捉えている。実際デッキ案というのはいかにも構造物らしいものだが、基本的な考えとしては土留めの壁である。断面図のように土留めの壁を前面に作ってその後ろに盛るという形はいずれのパターンもさほど変わらない。東西線でこのようなパースをつくり検討したのは、いろいろな見え方、特に下段の公園を利用される方に対し、圧迫感があり倒れそうで怖いというようなものであってはならない、ということで、下からの見え方について主にパースとして作ってきた。同様に、広瀬川に架ける東西線の橋についても設計コンペでデザインを決めてきた。こちらについても公園から橋を見上げた時に、どのようなシルエットが見えるかというところがかかなり重要な議論になった。そのこともありこのように下から見上げてあまり圧迫感があるものであってはならない、出来るだけ軽妙なものが良いのではないかとということで、今回3つの案を比較した。</p>
<p>西村会長</p>	<p>そもそも地下鉄を作ることにより自然崖が破壊されるので、それに対してどのように修景していくのかということから始まった。残念ながら本日の資料では展望としては魅力を感じないような形になってしまったが、そもそも下の方からの自然崖の連続性や地下鉄が出来たときの不連続性をうまく処理していくかというのが非常に大切なところである。そのようなところの意見をいただきたい。</p>

金子委員	<p>展望台ということで前回、自然崖を崩さないようにと議論した。これから行おうとしていることに対して、私はスロープ案はコンパクトでいいのかもしれないが、対岸から見た場合にアルコーブ案は威圧感があるので、展望台を観覧席のように２段とかにして下げてはどうかと思う。危険も少なくなると思うし、対岸から見たときに景観が良くなると感じたので、それでスロープ案がいいのではないかと思った。広瀬川が良く見えるようになって欲しいし、去年は例年にないほどサケがこの辺りまで遡上してきたので、展望台からそれを望めたらと思う。</p>
東西線建設本部 建設課長	<p>今のご意見は、段差をつけて崖のような形状のひな壇というか、できるだけ崖の傾きと近い形にすることによって下から見上げたときの威圧感が減るのではないかというようなことかと思う。東西線としても考える一つの方法であり、崖の形状と展望台の形状を合わせることにより威圧感を減らすということはあるかと思ひ、この形がいいかどうかということはまだ意見があるとは思ひが、アルコーブ案を入れている。</p> <p>ここで東西線として厳しい条件について話したいと思うが、当然景観というのは重要である。しかし、これから鉄道を運行するに当たり、地下鉄のトンネルの天井から下の軌道に人が降りる、物が落ちることは非常に危険である。1500Vの電線が走っているのでそこからできるだけ距離をとりたいということがある。このことを考えると展望台の高さは一定程度高くし、人が飛び降りない、間違っても下に降りない、落ちないということが大事であり、その辺のバランスの中で考えなければならない。</p>
宮城副会長	<p>いくつか視点を整理して考えたい。このような施設を作ることは前回決めた。次にどういうものにするのか、どう見えるか、何を見るかになってくる。今の話では西公園の上段と下段を一体的に公園整備するということだが、下段の人が上段をどういう風に見るかというときに威圧感や親和性というのがある。展望台の見え方としてのターゲットは下段の人達で、その人が楽しく見える、楽しめるというのが大事である。それで言えばヒマラヤスギ等はあまり問題にならない感じがする。見かたを変えてスライドP.5で周辺の状況を見てみると、広瀬川の対岸の国際センターやお城の隅櫓から展望台がどう見えるかという、距離的には非常に離れていて、点のような状態でしか見えない。周りから展望台を見るということでは、対岸は考えなくて良いと思う。ヒマラヤスギについて展望台に立ったとき景観を隠してしまう</p>

事務局	<p>かということだが、これは非常に大きな影響がある。この場所は広瀬川条例の第一種環境保全区域である。そうすると基本的にこの場所は保全を前提に考えるのか、それとも公園整備との関係でこれから先公園整備と調整し一帯で考え、その中でヒマラヤスギが混んでいれば切るということもあり得るのか、その辺の審議会のスタンスを決めておかなければならないと思う。</p> <p>広瀬川の清流を守る条例の第一種環境保全区域内での木竹の伐採について、通常は5 m以上の木を切る場合は許可が必要で、河川に接する土地については3 m以上で許可が必要である。許可を出す場合の考え方としては、木の伐採は極力しないで欲しいとしている。どうしても木の伐採を行わなければならないという場合、例えば家を建てようとしている箇所に木があり家が建てられない等の場合は、代替木を植えてもらい伐採の許可をしている。しかし、木の保育のための管理行為、間伐、除伐、枝おろし等については許可が不要である。</p>
宮城副会長	<p>基本的には伐採はしない方向ではあるが、公園管理の中で様々な方策が考えられると理解する。それで言うと、2つの議論が重なっていて非常にわかりにくい。西公園全体の利用からすれば、今の森が残っていたとしても市民の方は良好に利用できる。それとこの公園を利用する人はどういう人かというとおそらく地下鉄で近くまで来て歩いていくとか、仙台駅前から徒歩30分で到達する距離にあるわけである。仙台市の散策の中の一つの大きなメルクマークになってくるような場所である。車を使う、使わないにかかわらずこの場所は非常にたくさんの方が利用するところになる。そうするとここは公園の管理の仕方が重要なポイントで、これから先今の公園の質を下げないようにして利用の価値を高めてくような方向で基本的なコンセプトを作ってもらい、それに対して私たち委員がどう考えるかを決めていけばよいと思う。ここであまり先走った議論をしても難しいのかと思う。3案についてはここで議論していけばと思う。</p>
西村会長	<p>提案としては、保存樹林をどうするか等とリンクさせて3案の中から選ぶということは、今は出来ない。基本的には、自然崖に対してというところから始まっているので、まずはその景観、特に公園から展望台を見たときにどうかというところを意識していただきたい。</p>
石黒委員	<p>展望台についてある程度の高さがないと乗り越えられるという話があったが、スロープ案でも降りられない高さになっているのか。</p>

<p>東西線建設本部 建設課長</p>	<p>スライドP.24において、展望台の高さが4 mになっている。バリアフリーを考慮したスロープで降りられる高さである。屋外の斜路となると1/20の勾配が人にやさしいまちづくり条例等で決められている。逆に上の高さから下ってこられる高さがそこまでしかないという条件である。東西線としてもだいたい4 mあれば人は飛び降りないということで南北線の施設も含めて考えており、その考えと合致している。</p>
<p>西村会長</p>	<p>先ほどから安全性に関する質問が出ているが、まだ基本設計で大まかなデザインの段階であるが、安全性に関しては詳細設計の際に確保していただける。プラスの要求もあるかもしれないが、安全性については確保していただくことを前提に議論しなければ選びようがないと思う。経済性についても同じで、3案のどれでもコストが高い安いはないというのを前提に議論して欲しい。</p>
<p>田上委員代理</p>	<p>3案とも前面に張り出しているが、トンネルのスラブに載る形だが天井は厚くしているのか。そういった場合に左右の自然崖を一直線に結んだ形、スラブに影響のでない形にすることは出来ないのか。</p>
<p>東西線建設本部 建設課長</p>	<p>基本的に問題ない。東西線としてデザインを考えた際、展望台ということで多少空中感が必要かと、少し高いとことで見渡せるという展望台のイメージを考えると、物の間から覗くということではなく、空中に立ったイメージがあった方が展望台らしいということで張り出しを付けた。ご意見の通り崖のラインに沿って一直線に作ってしまうことも出来る。</p>
<p>田上委員代理</p>	<p>そうすると、自然崖に手を加えなくてもいいのか。オープンカットなのか。</p>
<p>東西線建設本部 建設課長</p>	<p>ここはオープンカット工法である。トンネルの高さがあり、崖の残りが非常に少ないためトンネル形式にこの部分を抜いて上の崖部分を残すということは物理的に出来かねる地形である。したがって、掘った部分を何かで埋めるとか土で復旧することは必須の条件である。</p>
<p>田上委員代理</p>	<p>了解した。</p>
<p>西村会長</p>	<p>図面等を理解しないとわかりづらい議論だったかもしれないが、自</p>

	<p>然崖に対して形をどのように残していくかというイメージである。</p>
石黒委員	<p>今の案も追加していいのか。</p>
西村会長	<p>デッキ案の張り出しを除くようなイメージになるのか。</p>
田上委員代理	<p>その方がスラブに余計な力がかからないで経済的かと思っただけである。</p>
石黒委員	<p>同じ考えで、下からの圧力等はない方がいいかと思う。張り出させた場合メリットがなければ、空中感はあるが景色が見えないとなると張り出さない方がいいのではないか。</p>
東西線建設本部 建設課長	<p>この入口の屋根の構造は、上から物が載っても大丈夫な構造になっている。載る、載らないで床版の厚さが変わることはない。張り出しの考えについては、張り出したことで必要あるかないかは別として、自然崖を横から見られると考えた。崖の線で切る場合は、今描かれている円盤がなくなる形である。</p>
宮城副会長	<p>崖のラインで切ることにより、その部分が全く人工であることが何の特徴もない人工の壁面になってしまう。その下に地下鉄が通る。展望台はおそらく公園を整備していく過程でシンボルになると思う。フラットにした場合、いかにも土木工事で言う三面張の一部がそこにあるような感じがしてしまうと思う。それを考えると少しデザイン性を持たせた方がシンボライズされていいかと思う。広瀬川の段丘崖を見られるということも重要である。街と自然を区切る崖でもあり、ここに来れば街の景観と自然の景観とを両方見られるというのもポイントかと思う。この展望台が出来れば有効に使いたいと思う。</p>
松澤委員	<p>今は工事中であるがプール側に階段があり、現在も天文台の脇にも立派な階段がある。今後上段下段の公園の整備が進んでいくことと思うが、市民のために活用できるようなものを作っていただきたい。</p>
西山委員	<p>3案の中でメンテナンス、維持管理を行いやすいもの、安全性を担保しやすいものというのはあるか。</p>
東西線建設本部 建設課長	<p>維持管理という点で見ると、立体的な構造をしていないアルコーブ案やスロープ案というのは、いくらか手がかからないかと思う。デッ</p>

	<p>キ案は柱が建っているというところが少し違うので、この柱を工夫すれば簡単になるかと思う。著しく何かが違うというのはない。柱が建っている分だけデッキ案が少し手がかかるかと思う。</p>
西山委員	<p>構造的に明快単純なアルコーブ案がいいかと思う。表面仕上げや細工が考えられ、これから細かいディテールを検討する上で幅がある気がする。スロープ案については、ユニバーサルデザインの観点からすると、知らない方、車椅子の方などは降りて行って行き止まりでもあるのでなかなか上がってこられないという懸念がある。</p>
近藤委員	<p>アルコーブ案がいいと思う。デッキ案について管理はすると思うが下部分にゴミ等が溜まったりしそうであり、下の公園から見たとき寒々しいと思う。アルコーブ案の方が、表面は何になるかまだわからないが、柱がないぶん管理が楽で下からの景観も人工的でもあり、それでいて綺麗な形かと思う。トンネルの出口についてはコンクリートのままなのか、植栽等されるかわからないが下からの見え方としてアルコーブ案の方がいいと思う。</p>
金子委員	<p>アルコーブ案がいいと思う。先ほど威圧感があるということで下げてはと発言したのである。</p>
宮城副会長	<p>(ここだけの話) アルコーブ案の表面材質が石っぽいものである。西公園から下の段に降りてくるところは安山岩の間知石の階段である。そこを登るとお城のような大町の交番がある。アルコーブ案でトンネルの枠も含めて石垣にしては素敵かと思うがどうか。</p>
東西線建設本部 建設課長	<p>風景の統一を図りイメージをそろえるということは、景観を作るうえで重要なポイントと思う。しかし、橋とトンネルはコンペでデザインを決めてしまっている。これを変えることは難しいことである。</p>
西村会長	<p>審議会の意見としてはアルコーブ案とする。 安全性や経済性、活用の方法などの意見が出たが、今後の設計に活かして欲しい。</p>
西村会長	<p><b>(議事(2))</b> それでは「(2) その他」であるが、事務局から何かあるか。  ーなしー</p>

西村会長	他に、委員の方から何かあるか。
西村会長	<p>－なし－</p> <p>それでは、本日の議事はこれで終了とし、マイクを事務局にお返しする。</p>
事務局	<p><b>(閉会)</b></p> <p>以上で、第36回仙台市広瀬川清流保全審議会的一切を終了する。</p>

以上

この議事録について、会議のないように相違ないことを認めます。

平成 年 月 日

仙台市広瀬川清流保全審議会署名委員

会 長 \_\_\_\_\_ (印)

委 員 \_\_\_\_\_ (印)